

シンポジウム 5

動脈硬化の予防効果の指標を考える

2015 年 7 月 18 日(土) 15:30 ～ 17:00 第 4 会場 (福岡国際会議場 4 階 409+410)

座長: 山科 章、代田 浩之

16:06 ～ 16:18

【SY5-4】 非侵襲的簡易機能検査法のパラメータを利用した心リハ継続率向上を目指した動脈硬化予防の試み

三浦 伸一郎¹, 藤見 幹太¹, 上田 隆士¹, 藤田 政臣², 浦 善之², 戒能 宏治², 堀田 朋恵³, 松田 拓朗², 朔 啓二郎¹ (1.福岡大学病院 循環器内科, 2.福岡大学病院 リハビリテーション部, 3.福岡大学病院 栄養部)

心リハは、動脈硬化の進展防止に有効である。当院では、心リハ立ち上げから 3 年が経過し、新規患者約 40 人/月、延べ件数約 650/月と心リハ導入には成功した。しかし、外来心リハ継続率が低いのが現状である。現在、心リハ継続への患者介入を目的に、臨床研究「心血管病に対する心臓リハビリテーションの有無による主要有害心血管イベントと各種パラメータの関連性」を実施中である。患者自身に研究への興味を持ってもらうこと、血圧・脈拍測定や心電図検査などと同様に簡便で非侵襲的・安価なこと、検査結果の可視化、その改善を糧とした心リハ継続を考え、eHEART® (LF/HF 測定: 5 分間で自律神経評価)、nico® (左右血圧、心係数、末梢血管抵抗測定)、PASESA®[動脈硬化重症度を AVI(arterial pulse velocity index)や API(atrial puls amplitude index)で判定]の 3 種の非侵襲的簡易機能検査法を導入した。現在まで 80 名を登録し、登録前、3 ヶ月後～1 年後まで継続的に心リハの効果を観察している。今回は、これら 3 機種のパラメータの信頼性や意義 (LF/HF や API が有用な指標、特に API は冠動脈硬化重症度と関連) および 3 ヶ月後までの改善効果 (API が改善傾向、心係数は変化なし) を示す。